

## Campus Sketch



### ・ 時計台

昭和42年3月の卒業生が卒業記念として、3個の電動式時計を贈った。時計台の南面と西面、もう1個は新築された第2棟の屋上に運動場向きに取り付けられた。



### ・ ステンドグラス

昭和53年、現在の図書館の建築に伴い、旧図書館は解体された。その第1棟時計塔の窓には、当時の芸術科小山桂一教諭のデザインによるステンドグラスが全面にはめ込まれ、玉高のシンボルをさらに際だたせている。



### ・ 前庭の池

白亜の本館建築当初に造られた前庭と池は、和風の清楚なたたずまいを見せている。現在はツツジが植えられ、芝も手入れされて、建築当初の美観を見せている。池の手前の石は旧本館の台石を残したものである。



玄関上の五つの校章



第3回全国高校駅伝優勝碑

・ [玉高新聞「全国高校駅伝優勝」](#)



金栗四三像



・ [「マラソンの父」金栗四三](#)

金栗四三筆(80歳)「体力・気力・努力」



「考える人」



若駒像(玉高20回卒寄贈)

・ [ロダンの「考える人」](#)

昭和32年、当時3年生の男子生徒が不治の病のため他界し、ご遺族からお世話になった学校へ何かしたいという話があった。相談を受けた担任の春川先生は、柳川在住の彫刻家富重正男氏(東京芸術学校出身)に相談された。来校した富重氏は前庭を見られ、ロダンの「考える人」を立てたらどうかと案を出された。富重氏は本物のロダンの像を数度にわたって見に行かれ、現在のセメント造りの「考える人」が完成した。

・ [甦った「考える人」\(2003/7/28\)](#)

制作されて約50年経った「考える人」も、黒ずんだり、ひび割れたり痛みが目立ってきた。創立百周年を機に、同窓生の中本明宏氏(高13回)らのご協力により、「考える人」が見事に甦った。

7月24日、26日の2日間、像の洗浄、補修、コーティングが施され、特にコーティングは二酸化チタンによるもので、光触媒による保護で今後はほとんど劣化しないそうである。同時に「金栗像」や正門の門扉も補修していただいた。「考える人」、「金栗像」は前庭の美しさをより一層引きだすものとなるであろう。

